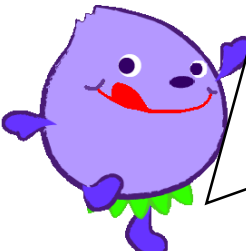


小川デザインプロジェクト 基本設計レイアウト（案）のポイント

平成30年度から令和元年度まで、ワークショップなどの小川デザインプロジェクトで検討し、令和元年12月に策定した「小川駅西口地区市街地再開発事業公共床等の整備基本計画」に基づき、レイアウト（案）を作成しました。

レイアウト案の**ポイント**を説明します！

- 
1. これまでの経緯
 2. コンセプトの具体化（案）
 3. 全体レイアウト（案）のポイント
 4. 4階レイアウト（案）のポイント
 5. 5階レイアウト（案）のポイント
 6. スケジュール

中央公民館、健康福祉事務センター及び福祉会館
の更新等に関する基本計画

小川駅西口地区市街地再開発事業公共床等の整備
基本計画

令和元年12月
小 平 市

中央公民館、健康福祉事務センター及び福祉会館の更新等に関する基本計画、小川駅西口地区市街地再開発事業公共床等の整備基本計画」もあわせてご覧ください。

基本計画は、市ホームページでもご覧になれます。

1. これまでの経緯

小川駅西口公共床等について

小川駅西口公共床等の複合化の方向性は以下のとおりです。

「地域対応施設（注）である西部市民センターにある機能は、小川駅西口公共床に移転します。小平元気村おがわ東にある「市民活動支援センターあすぴあ」及び「男女共同参画センターひらく」についても、公民館や図書館との相乗効果をもたらすことを目的として、小川駅西口公共床に移転します。」

（注）... 市内の一定の地域を中心とした利用を前提とした施設



	日程等	参加人数等	概要
中央・小川デザイン カフェ ※準備会を除く	2018(H30)年 11 月～2019(H31)年 3月 全 12 回開催 (中央 6 回、小川 6 回)	登録者数 55 名 延べ参加者数 198 名 (中央 112 名、小 川 86 名)	ワークショップ形式 で、中央エリアの(仮 称)新建物(注)及び 小川エリアの小川駅 西口公共床等につい て意見やアイデア等 を出しあった。
利用者・利用団体ヒ アリング	2018(H30)年 11 月～12 月 全 8 回開 催(中央公民館、福祉 会館、西部市民セン ター、小平元気村お がわ東 各 2 回)	延べ参加人数 76 名 延べ参加団体 57 団 体	実際に施設を使用す る利用者・利用団体 に活動の実態、課題 や要望について、直 接、聴き取りを行っ た。
アンケート	2019(H31)年 2 月 ～3 月 アンケート調 査票配布・回収	配布 4,327 部 回収 1,554 部 回収率 36%	中央・小川エリア周 辺の学生、在勤者、 子育て世代、障がい 者、近隣住民を対象 に実施した。
出前授業	2019(H31)年 1 月 ～2 月 実施	小学校 7 校・432 名参加 中学校 2 校・321 名参加	中央・小川エリア周 辺の学校にて、公共 施設の現状と課題を 説明し、新しくでき る施設でやりたいこ と等を考える授業を 行った。

小川デザイン
プロジェクトで
の様々なご意見
を踏まえて基本
計画を策定しま
した。
基本設計で具
体化します。



小川駅西口地区市街地
再開発事業公共床等の
整備基本計画より抜粋

基本計画での「コンセプト・施設機能」や小川デザインプロジェクトでの意見（概要）

生涯学習（公民館、図書館）機能のほか、市民活動支援、男女共同参画のそれぞれの機能は縦割りに独立したものでなく、一体的な新しい施設となることを目指す。

新しいタイプの公共施設へのチャレンジとして、ビジネスパーソンや学生にとっての利便性向上、大学や企業と連携した公共床の活用など、回遊や滞在による、にぎわいの創出を目指す。

図書を閲覧するためのスペースとして、本に囲まれた居心地の良い空間を設ける。

西部市民センターや小平元気村おがわ東から移転する機能のほか、コンセプトを踏まえた付加価値的な空間を設ける。

様々な人や世代が気軽に集い交流する場として、フレキシブルで多目的に使えるフリースペースを設置する。

憩いの場として、軽食のできるスペース（カフェ等）を設置する。

ダンスや音楽などの活動をするため、一般的な防音機能を備えたホール（フラットで広めの多目的室）を、5階北西側に設置する。また、中高生等の居場所として、バンドやダンスの練習等ができる防音室（スタジオ）を設置する。

学習室、講座室、集会室等、市民が利用する部屋の機能を保持しつつ共用化・多目的化を図る。

施設内の各機能の配置については、可変的な空間設計などの工夫を行う。

4階から5階を吹き抜けにすることで本が繋ぐようなイメージとする。

4階には事務スペースや図書貸出機能など行政サービス機能を配置し、図書スペース内にカフェ等を配置する。5階のフラットで広めの多目的室は可動式の間仕切りで多様な活用を可能とする。

4階には、子どもを中心とした空間と総合案内案内窓口も配置する。5階には、音楽会なども行える多目的の設置とコワーキングスペースも配置する。

通路幅を広くし障がい者が通りやすい空間とする。

4階を静ゾーン、5階を動ゾーンとし、4階には子どもや高齢者に関する機能、総合案内窓口や出張所を配置し、5階には富士山を見ながら活動できるように公民館的な機能を配置する。

4階にはエントランス機能やギャラリー機能、子どものためのスペースやカフェを配置し、5階は全体的に大人の空間として多目的室を配置する。



2. コンセプトの具体化（案）

基本計画で掲げる小川駅西口公共床等のコンセプトについて、これまでの小川デザインプロジェクトなども踏まえて具体化するレイアウト案の検討を行いました。

4 階・5 階全体レイアウトコンセプト 「本と多様な活動が重なりあう創造空間」

施設全体を本に囲まれた居心地の良い空間とします。生涯学習（公民館、図書館）と市民活動など多世代の多様な活動が重なり合い、相乗効果を生み出すことを目指します。

4 階レイアウトコンセプト 「利便性の向上と子育て世代の利用促進」

4 階は、アクセスしやすいフロアであることに着目し、西部出張所や総合受付案内を配置します。
また、子育て世代に魅力を発信するフロアにします。

5 階レイアウトコンセプト 「開放的で多様な活動の共存」

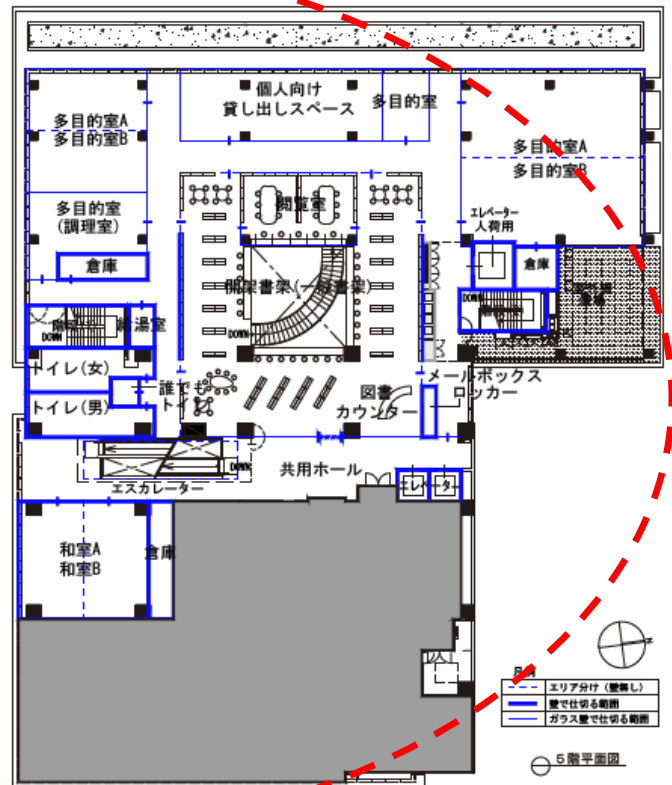
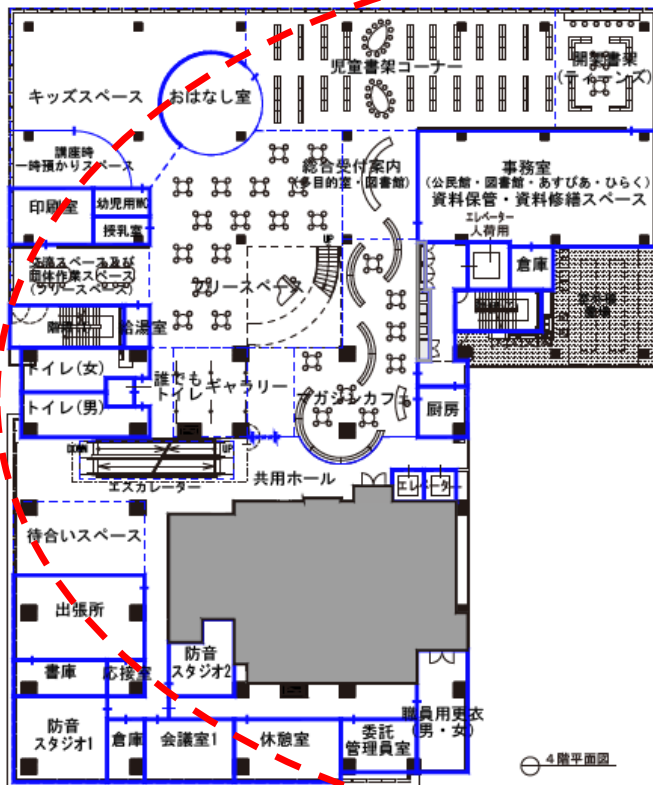
5 階は、眺めが良いことに着目し、多目的室などを配置します。
また、多様な活動や人々が集まり共存し、互いの活動の様子を発信できるフロアにします。

3. 全体レイアウト（案）のポイント

本と多様な活動が重なりあう創造空間

ポイント1

本を各階に配置し、施設全体を本に囲まれた空間とします。生涯学習（公民館、図書館）と市民活動など多世代の多様な活動が重なり合い、相乗効果を生み出すことを目指し、つなぎ目のない配置とします。



ポイント2

打合せや読書のほか、気軽に集い交流する場として、オープンで自由度の高いフリースペースを各階に設けます。また、視覚的な連続性、開放感を創出するために吹き抜けと内階段を設けます。

ポイント3

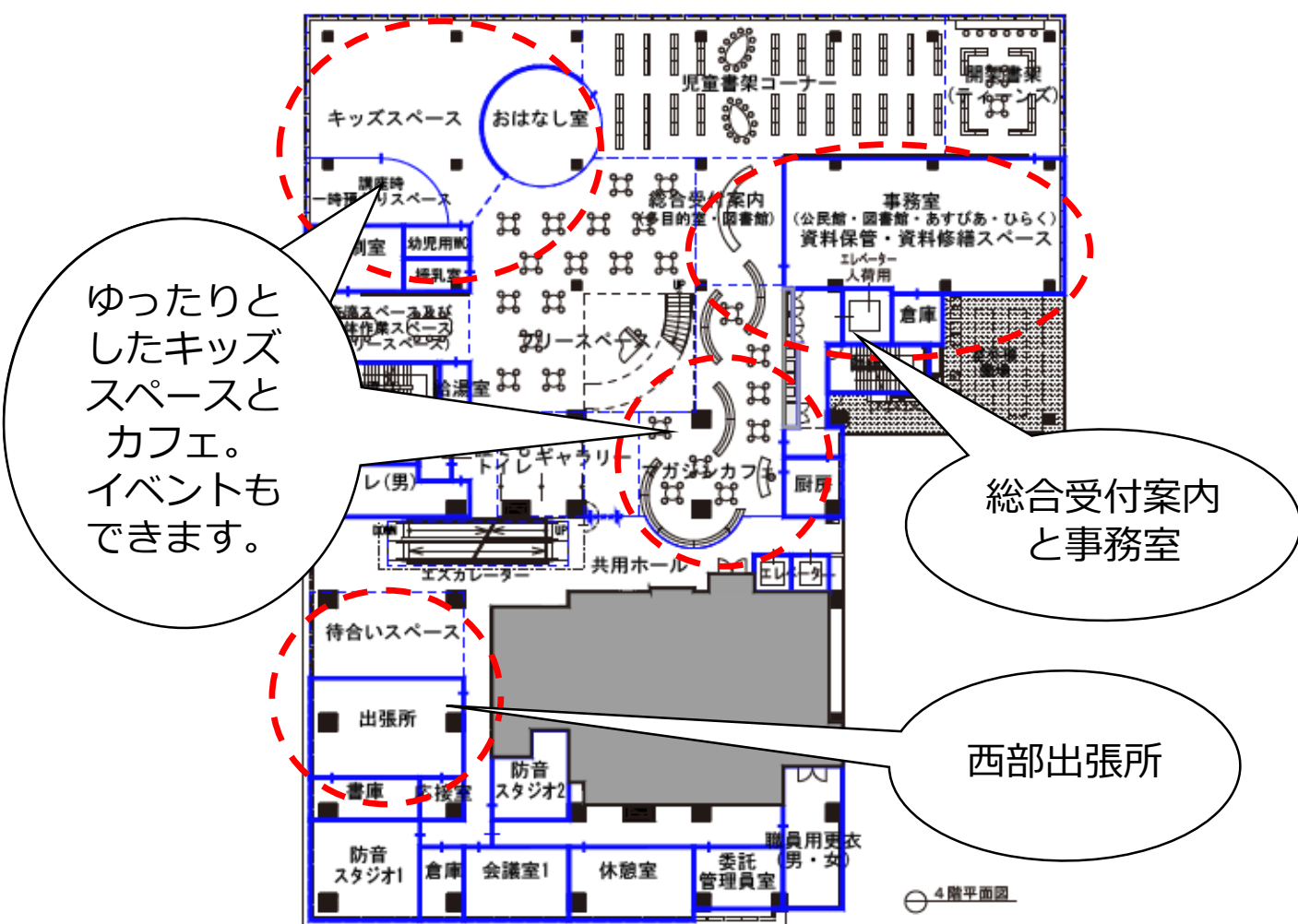
障がいのある方も利用しやすいように通路幅などに配慮します。

4. 4階レイアウト（案）のポイント

利便性の向上と子育て世代の利用促進

ポイント 1

利便性の向上として、4階に西部出張所を配置します。
また、問い合わせなどに総合的に対応できるように
総合受付案内と各機能を集約した事務室を配置します。



ポイント2

子育て世代の図書館の利用促進につながるよう、ゆったりとしたキッズスペースを設け、隣接して児童書架とお話し室を配置します。

また、憩いの場として本や雑誌を読みながら過ごすことのできるカフェスペースを設けます。

5. 5階レイアウト（案）のポイント

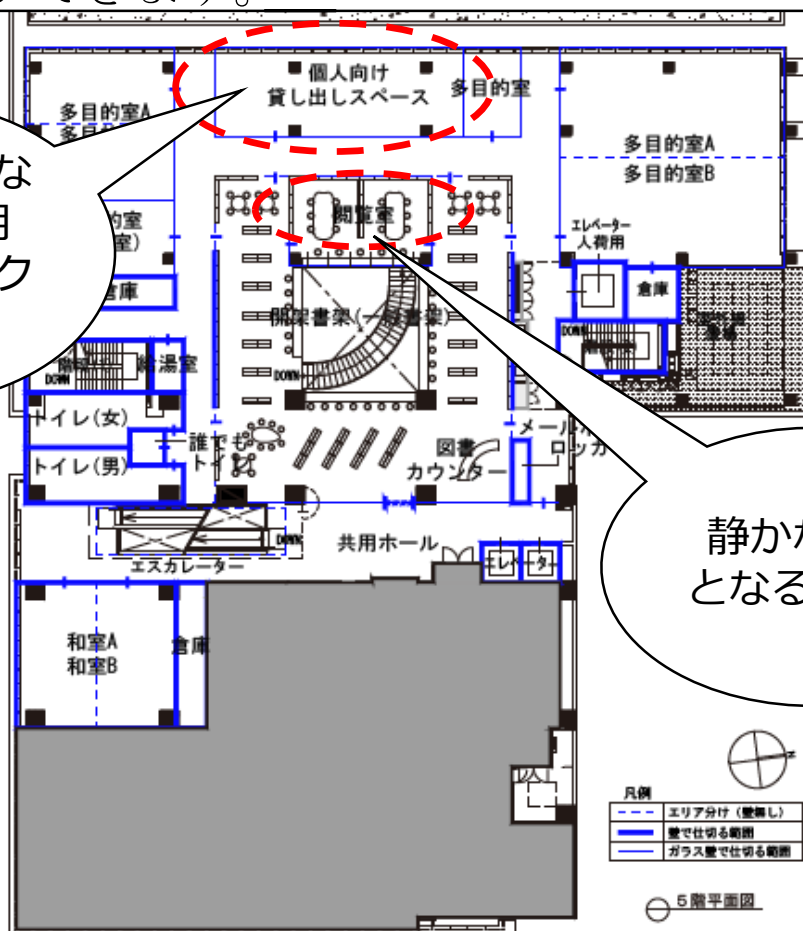
開放的で多様な活動の共存

ポイント1

眺めのよい5階全体に多目的室などを配置します。多目的室などをガラス壁とすることで、開放的な空間とし、図書館利用者にも活動の様子を発信することができます。

また、部屋の間仕切りも可能で、用途に応じた空間をつくることができます。

仕事、勉強などにも活用できるワークスペース



静かな空間となる閲覧室

ポイント2

サラリーマンや学生の利用など、個人の書斎のようにゆったりと落ち着いた環境で、個人でも利用できるワークスペースを設けます。

ポイント3

静かに本を読みたい方のための閲覧室を設けます。

6. スケジュール

令和2年6月11日～24日

本レイアウト案に対する意見募集

令和2年8月

ワークショップ、利用者・利用団体ヒアリング開催

令和2年10月

オープンハウス（2回程度）開催

令和2年10月末

基本設計書完成

令和2年6月11日から6月24日までの
期間で、レイアウト案に関するご意見を募
集しています。

詳しくは市ホームページをご覧ください。



【お問合せ】 小平市 企画政策部 公共施設マネジメント課
〒187-8701 小平市小川町2-1333
TEL042-346-9557 FAX042-346-9513
メールアドレス facility-mg@city.kodaira.lg.jp